

第 57 号

小中一貫教育 G だより

令和5年度からの「自立期」について

「自立期」においては、各中学校グループが自らの児童生徒の実態を踏まえ、義務教育9年間を通じて育成を目指す子どもの姿（資質・能力）を明確にし、発達段階に応じた指導・支援を行うことで、主体的に取り組む教育を展開していきます。

各小中一貫教育グループの取組の成果

各中学校グループが義務教育9年間を通じて育成を目指す子どもの姿（資質・能力）を育成するためのそれぞれの取組について紹介します。

「ハローウィン見学」

成果

- ・中学校見学後、93%の児童が楽しい気持ちや期待感がふくらんだ。



「説明を真剣に聞く児童の様子」

「授業改善部会の取組」

- ① 全教科において「めあて・まとめ・ふり返し」の完結型授業を構成する。
- ② 「ふり返し」で次時を見通せるよう視点を工夫する。
- ③ ノート記述の指導を工夫し、学び方を支援する。

〈目標値 - 達成値〉・・・ 78% - 75.1%

成果

- ・手立てが有効に働き、授業内容の理解や学習の仕方が分かる児童生徒が増えた。



「ふり返し」を通して「見通す力」の育成

中学校教師による、小学校への「乗り入れ授業」

成果

- ・児童が喜んで授業に参加し、中学校教師に親しみを覚え、中学校生活への不安軽減に繋がった。



「乗り入れ授業の様子」